

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成29年度採択）

中間評価（案）（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
29-9	リモートセンシング技術を活用した道路土構造物の維持管理の効率化に関する研究開発	東京大学 教授 古関 潤一	B
<p><研究の概要></p> <p>リモートセンシング技術(合成開口レーダー[SAR])を活用し、広域の道路土構造物の変状(軟弱地盤・スレーキング材料による長期沈下、アンカーのり面・深礎杭の変状、管理外の土石流・地すべりなど)について、過去に遡ってデータベースを作成することにより、劣化しつつある道路土構造物の性能・対策優先度を評価し、道路施設の点検・維持作業の効率化を図る。</p> <p><中間評価結果></p> <p>SAR を活用した道路土構造物の変位計測データの蓄積・分析は、計画通り順調に進んでいるが、最終とりまとめの方向性に課題があることから、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none">最終成果としての「マニュアル」について、SAR というシーズの活用を主眼としたとりまとめ表現となっているが、SAR の活用条件を明確化した上で、道路管理者による具体的な活用場面やニーズを主眼とした「マニュアル」としていただきたい。実用に当たっての初期導入コストについても意識し、研究を進めていただきたい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第36回新道路技術会議において審議したものである。